

2017/4/4

(日々雑感 69)



「ふと、ひらめいた！」と言うのがあります。

考えて、考えて、考え抜いて行き詰まり、疲れ果て、力なく「ぼんやりしているとき」にどこからか何か、どういうルートをとって来るのか分からないのですが、あるとき「ふと、ひらめいて」問題が解けたり、アイデアが出たりする。

だから、考えて、考えて、考え抜きなさい。その「行った先に」答えがあるからというようなことを言われたことがありました。

でも、なんでひらめくのが、机の前やはっきりとした覚醒時ではなくて、ぼんやりとしたとき、例えば街歩きをしているときだったり、お風呂に入っているときだったり、寝起き端(ばな)だったりするのか不思議でした。企画をやっていた頃。

それで、最近思ったのは、そのひらめきは、考えて、考えて、考え抜いて、タダ煮詰めるばかりの「行った先」にあるものではなくて、考えて、考えて、考え抜いて、ふと脇見をした「横」にあるのではないかと思い始めたのです。

どういうことかということ、考え抜いて疲れ果て、頭がぼんやりしているときは、それまでの「その考え」100%埋め立て状態であったところ、籐(たが)や縛りが無意識に緩んで、街歩きやお風呂や寝起き等に含まれる、その他の種々雑多な外部の情報が入ってくるようになり、100%だった「その考えフル状態」だった比率が、まず低下して、偏りが減るとともにバランスが良くなり、しかも入ってきた情報を知らず知らずのうちに脇見することで、それとのコラボレーションと言うのか化学反応というのか分かりませんが、そういった類いの何かが起こって「ひらめく」のではないかと。

なので「行った先」ではなくて、満杯だった「ある幅」の中で、相対的に減っていた「その考え」の「横に」無意識に入り込んできたものとの間に、「思いも寄らぬ」コラボや化学反応が起こったと言う意味で、ひらめきは「行った先」の向こう側ではなくて「横にある」のではないか？と思ったわけです。

つまり、しゃかりきに前へ進むだけではなく、時にはぼんやりしながら横でも見ないと、何も思いつかないし掴めもしない気がしたわけです。今になってみると、の話ですが。

なので、なるだけ「その考え」以外の、その時点ではあまり関連のありそうもない、他愛なくどうでもいいようなことにも目を向けたり、気かけたり、記憶に残すか感想を持つようにした方がいいような気がします。そのためには、なるべく幅を取って広くあたりに目を向けた方が。

恐らくその雑多な物事は、きっといずれ何かの役に立つでしょうし、古人の言い方を借りれば「大才は、袖ふれあうの縁も活かす」というようなことになるのかもしれませんが。

以上は、甚だ「ぼんやりとした」個人の感想ではあるのですが・・・